

2019年3月吉日

浅野健一先生 最終講義のご案内

早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、22年間、共同通信記者を務められた後、1994年4月から同志社大学大学院社会学研究科メディア学専攻博士課程・同大学社会学部メディア学科で教授として教鞭を取ってこられた浅野健一先生が昨年7月27日に古希を迎えられました。

5年前の2014年4月に定年延長がなされていれば、本年3月31日が大学院教授の「70歳定年」退職の日でした。

実際には、2014年3月の定年延長拒否＝解雇以来、京都地裁、大阪高裁、最高裁と地位確認等請求の裁判を闘ってこられましたが、先日1月25日に最高裁から上告棄却の報が届き、残念ながら敗訴が確定。20年間大学院教授を務めた浅野先生は同日、「元同志社大学大学院教授」となりました。

同志社大学は1994年にそれまで現場の記者だった浅野先生を大学院の教授として採用しておきながら、“不良教授”と決め付け、地位確認裁判では「教授としての一定基準のレベルに達していない」と主張しました。しかし、浅野先生のように記者としての経験があり、同時に学術的にジャーナリズムを論じられる人は今まではほとんどいなかったのではないかと思います。

5年前の理不尽な定年延長拒否によって、浅野先生、次に続く研究者の教育研究の場が奪われただけでなく、学生にとっては貴重な学びの場も失われました。大学は伝統ある新聞学専攻・メディア学科を潰したと言ってよいでしょう。

浅野先生の定年延長を拒否した同僚教授陣が何と言おうと、私たち浅野ゼミOB・OGは浅野先生の授業・ゼミでかけがえのない学びを得てまいりました。浅野ゼミの20年間の活動は今も同志社大学ホームページの中にある浅野ゼミのサイト（今年3月末に浅野文春裁判支援会ホームページへ正式移行）で見ることができます。

浅野先生が記者時代に刊行した第一作『犯罪報道の犯罪』（学陽書房、講談社文庫、新風舎文庫）は報道界だけでなく、放送関係者、刑事法学者、冤罪被害者らに支持され、「報道被害」という新語を生み出しました。先生は、その後も、人権と報道、メディア責任制度、国際報道などに関する多数の著書を世に出してきました。

マスメディア報道による人権侵害を救済・予防するための「人権と報道・連絡会」世話人としての社会活動や、朝鮮民主主義人民共和国との友好促進、反戦平和運動にも関わってこられました。昨年6月には、シンガポールで開かれた米朝首脳会談を取材し、2月27・28日のハノイでの第2回首脳会談も取材されています。

浅野ゼミは、その時の重要なイシューを取り上げた講演会、シンポジウムを開催してきました。浅野ゼミの21人で東電福島原発事件のテレビ報道を記録、分析した『DAYS JAPAN』増刊号「検証・東電事故報道」（2014年4月）はメディア研究の歴史

に残る成果でした。

浅野研究室には学部学科の枠を越えて、また他大学からも学生が集まってきました。学生だけでなく、報道界を含めた社会人の方々までもが浅野先生のもとに来て学生に交じり議論する姿が日常的に見られました。このような光景は他では見られないものだったのではないかと思います。

残念ながら、浅野先生の定年延長・職場復帰はなりませんでしたが、これまでの浅野先生のご指導に心から感謝するとともに、人生 100 年時代、これからは浅野先生にはお元気でご活躍いただきたいとの思いから、発起人の皆様とともに浅野健一先生最終講義を行う運びとなりました。

会場は今出川キャンパスの良心館 205 教室 (364 人収容) です。紆余曲折がありましたが、大学当局が教室を貸し出してくれました。

なお、最終講義の後、フォークシンガーの中川五郎さん (同志社大学新聞学専攻中退、東京都在住) が友情ライブ公演を行ってくださいます。

ご多用の中とは存じますが、皆様のご参加をお待ちしております。

また、ご都合悪くご参加いただけない場合でも、メッセージを下記連絡先までお寄せいただけましたら幸甚です。どうぞよろしく願いいたします。

発起人

**【友人】**

山際永三さん (人権と報道・連絡会事務局長、映画監督)

山下幸夫弁護士 (東京弁護士会、浅野教授地位裁判代理人)

添田早俊さん (人権と報道・連絡会会員)

大石薫さん (インドネシア語通訳・翻訳)

片桐元さん (元新潟日報記者)

リー・スーイム (李洙任) さん (龍谷大学経営学部教授、同志社大学商学部卒)

**【元ゼミ生保護者】**

氏本義隆さん・氏本デリアさん (元ゼミ生、氏本ロナルド智之さんのご両親)

**【学生】**

大内健史 (大学院文学研究科)

**【元ゼミ学生】**

泉修平 (西日本新聞社 八女支局長)

田中渥子

森類臣 (大谷大学 文学部 助教)

山田遼平

馬場尚子 (OB・OG 代表)

\*\*\*\*\*  
浅野健一先生 最終講義  
\*\*\*\*\*

■ 日時：2019年3月16日（土）午後1時～5時30分

■ 場所：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 205 教室 (RY205)

●京都市営地下鉄・烏丸線「今出川」駅北口から徒歩1分

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/imadegawa.html>

■ 次第

午後1時～2時30分 浅野先生 最終講義

「人民のためのジャーナリズムの創成—非戦平和の東アジア構築を目指して」

午後2時30分～50分 質疑応答

—休憩—

午後3時～3時30分 OB・OG 会報告「浅野ゼミの20年」

午後3時30分～4時 労働裁判支援会報告「裁判・定年延長制度の問題について」

—休憩—

午後4時10分～5時30分 中川五郎さんミニライブ

【中川五郎さん 大阪府寝屋川高校3年の時に作詞した「受験生ブルース」が高石ともやの作曲で大ヒット。1968年、鶴見俊輔教授のゼミに入ろうと同志社大学文学部社会学科新聞学専攻に入学。歌手活動が忙しく、3年生の時に鶴見教授が同大の機動隊導入に抗議して退職したことで、退学。著書『ディランと出会い、歌い始める』（編集グループ SURE、2017年12月）、訳書に『ボブ・ディラン全詩集』などがある。】

■ 懇親会 午後6時～8時 新町今出川西北角「らくろう」にて（参加費 4000円）

ご参加いただけます場合はメールか郵送でご連絡ください。

懇親会への参加・不参加もあわせてご記入ください。

■ 連絡先

・メール：馬場尚子 bbnaoko@gmail.com

タイトルに「浅野健一先生 最終講義」とご記入ください。

（問い合わせ：090-2194-8680 出られない場合はメッセージをお願いします。）

・郵送：タカタ総合法律事務所（所長・高田良爾弁護士）までお願いします。

〒604-0815

京都市中京区夷川通高倉西入山中町 550GF ビル3階

タカタ総合法律事務所 気付「浅野健一先生最終講義運営委員」宛